

白井市立南山中学校

心にのこる本との出会い

生きる力を育む読書

1 学校の紹介

本校は、市の東西を走る北総鉄道白井駅の周辺の、船橋市に隣接する地域である。独立住宅と分譲マンション型式の中高層住宅が立ち並ぶ地区より成り立ち、保護者の教育への関心は高い。創立35年を迎え、「共生の精神で自他ともに尊重し、新しい時代を心やさしく、たくましく生きていける生徒の育成」を学校教育目標とし、生徒一人ひとりの持ち味を生かし、生き生きと学校生活が送れるよう、①自他を理解し、お互いを大切にする生徒、②進んで学習し、自ら考え、判断し、行動する生徒、③元気で、仕事に汗を流し、自分の責任を果たす生徒の育成を目指している。生徒会活動では「南中(なんちゅう)NHKプロジェクト」を掲げ、N・・・にげるな勉強、H・・・はじける挨拶、K・・・きれいな学校を目指し、教員と生徒がともに魅力ある学校を創ろうと活動に励んでいる。

白井市では、公立図書館とつながり、学びの充実を目指して、学校図書館を子どもの学びに合わせてコーディネートし、その学校らしい図書館作りを目指して活動している。白井市教育センター室と読書コーディネーターが中心となり、図書主任会を組織し、情報交換や学習会、実践発表会等を定期的に行っている。本校も、幅広い読書を通して生きる力をことを目標として研究を進めている。

2 自校の図書館の現状

学校図書館では、研究主題「将来を見据えながら学習の意味を考え、課題解決に向けて相互に学び合う生徒の育成～基礎学力の定着をとおして～」を受け、昨年朝の10分間を、読書と漢字練習の並行から、読書に一本化した。①文学作品に触れる機会を設け、語彙力や語彙力向上の一助とする。②1日の学校生活を落ち着いた状態で迎える。③図書室利用を促進する。以上のことに重点を置き、学習する意味、意義を理解し、将来を見据えた視点を育て、相互に学び合う発表力、表現力の育成を目指している。

3 司書教諭および図書主任等の教員の取組

(1) 校内組織と主な役割

司書教諭と学校司書とが連携し、学校図書館を運営している。白井市では教員免許を持った読書活動推進補助教員（以下学校司書とする）が市内全小中学校に配置されている。読書活動の充実を推進することにおいてその存在は非常に大きい。

- ・学校図書館活用計画の作成
- ・学校司書との運営における連携・相談
- ・資料を研究して授業に参加
- ・調べ学習の計画、選書、支援
- ・図書委員会の指導
- ・新刊図書の選書と購入

(2) 子どもや教員に対する支援

- ①図書館の運営に関すること

- ・おすすめ本や授業で紹介されている図書の紹介・展示。
- ・授業で作成した資料や授業の様子を撮影したものを壁面に掲示し、管理。他学年にも知らせて、意欲を喚起。
- ・生徒には、4月に1年生を対象として学校図書館オリエンテーション。
- ・学校司書の自己紹介を兼ね、ブックトークやストーリーテリング。
- ・教職員には年度当初の職員会議で「読書の力」「学校図書館の役割」「学校図書館活用の授業例」などを示したガイダンス。

②読書推進活動に関すること

- ・読書活動推進補助教員による各学級での読み聞かせ
(今年度は戦後70年であるので『戦争』に関する、発達段階に応じたもの)
- ・図書委員会による、生徒集会での発表

(3) 学習等に関する支援

①教科指導・特別活動に関すること

1年生には4月に学校司書と連携してオリエンテーションを行う。読み聞かせやブックトークの楽しさと、図書館が心休まる場所であることを知らせたい。



中学校はどんな本があるの？

●学校図書館活用の授業例

1 年 生

国語科	『オツベルと象』のあとに宮沢賢治の他の作品を学校司書による読み聞かせ お気に入りの物語を紹介！「ビブリオバトル」
技術・家庭科	ブックトーク「ものづくり」
学年行事	校外学習の事前学習



目指せ！学級チャンプ！

2 年 生

技術・家庭科	ブックトーク「電気をつなぐ 命をつなぐ」
国語科	『随筆を味わう 枕草子・徒然草』『夢を跳ぶ』でビブリオバトルのT・T 1年生を招待しよう in 体育館 『悠久の自然』『ガイアの知性』 「地球に生きる」読書会
夏休み	「おすすめ本」のブックトーク
理 科	レポート作成の導入に「動物の体のつくり」関連本の読み聞かせ・調べ学習
学年行事	校外学習の事前学習

7名のバトラーが1年生の前で発表！



3 年 生

国語科	「近代の俳句」季語調べと作者調べ 学校間貸出システムで、『歳時記』が 全員の手に渡りました。 『故郷』グループでの読書会。どくし ょボードは作成中です。
学年行事	校外学習の事前学習



委員会活動

しおり作り中・・・みんなに好評です。



今回はどんなデザインにする？



冬休み前の[お楽しみ袋]。皆、我先にと走って取りに行きました。

南山中学校図書館

読書活動推進補助教員 荒川 依子

- ★学校図書館を授業で活用してもらおう
- ・研修などで得た情報を教師に伝え、提案する

☆授業の補助にはいることで、いろいろなアプローチの仕方を生徒に示すことができる

ビブリオバトル



読書会



読み聞かせ

ブックトーク

- ★学校図書館を生徒に身近に感じてもらう

図書館
オリエンテーション



図書室掲示板(新着案内)

図書室だよりの発行

豊かな 読みの力

のために

タイムリーな
ニュースや
原作本はす
ぐに展示

- ★教師の求める資料を**とことん**集める

- ・授業の内容を理解する
- ・教師との話し合いを密にして思いを知る



依頼された資料のメモと市立図書館
や他校から借り受けたブックリストは、
ボードに貼って交通整理



ブックラックは
いつもフル稼働

☆市立図書館との連携(学校間貸出の運搬車の利用を含めて)、白井市図書検索システム、読書活動推進補助教員の全校配置の3つがなければこの目標は実現しなかった

時事ニュース
ムービー
季節のコーナー

特別貸出イベント企画



中学生もイベントは大好き!

5 成果と課題 (○は司書教諭, ●は学校司書のもの)

(1) 成果

- 白井市には学校間貸出図書検索システムがあり、書名を入れると、どこの学校にどんな本があるのかが一目でわかる。各学校に学校司書が1人いるので、そのシステムを用いて同じ本を複数冊集めることができるようになり、読書をさせるのにも、幅広く、個に応じた選書ができた。
- 白井市内で図書主任会を組織しているため、情報等がスムーズに流れ、学校司書を通じてさまざまな授業の工夫がなされるようになり、職員全体の意識が高まった。
- 授業で並行読書を取り入れたり、学校司書、白井市図書館司書が選書したものを読ませたりすることによって、図書館に眠っている良書の活用ができた。
- 交流を通して、互いの心が豊かに温かになっていくのを感じた。
- 学習図書委員の積極的な活動、学校司書の「時事コーナー」「新着図書」「ポスター」等の掲示・展示、学校図書館の授業での活用がよい流れを生み出し、貸出数が昨年度より大幅に増えた。(H26年度:3537冊 H27年度:4235冊)約700冊の増加であり、1人あたり2.5冊増加である。(どちらもその年度の12月現在)
- 学校司書が授業に入ることにより、選書、スピーチの原稿等へのアドバイス、リハール等が複数の教員でできるようになり、きめ細かな指導ができるようになった。
- 単発的ではなく授業にT・Tとして入ることで、教師の目指すところを理解し、また生徒たちの様子を知って個性や能力がわかり、指導に反映することができた。生徒たちとの距離が縮まり図書室の利用が増えた。

(2) 課題

- 各教科ごとに読書活動を取り入れた年間指導計画の作成を行っていききたい。教科主任会での相互の教科の年間指導計画の調整と授業の検討を考える。職員が学校図書館を中心として各学年間・教科間の連携を図り、学び方を共有すること、学んだことを理解し合うことによって、生徒が主体となった学びの充実が図れるのではないかと。
- 授業実施の際、その成果と課題、生徒の変容の記録を共有し、学校図書館活用の資料として保存できるような工夫をしたい。また、3年間を通して、さまざまな読書活動を授業に組み入れ、言語活動の充実を図っていききたい。
- 司書教諭、読書活動推進補助教員への学校図書館の計画的な利用申請、細かな打ち合わせを心がけたい。特に学年行事での調べ学習などは、テーマが広いと教師側の意図がうまく生徒に伝わらないこともある。白井市特有のT・Tができる学校司書と積極的に連携を図り、授業改善の工夫を心がけたい。
- 担当の先生との話し合いの時間を作るのが大変だった。例えば、夏休み中の勤務など柔軟に対応できる勤務体制の必要性を感じる。
- 今年度は、他校からの借り受けに大いに助けられたので、日頃から早めの図書購入の選書計画を考えなければならないと思った。

- 1 単元名 地球に生きる 一読書活動を通じて考える、自然と人間のあり方—
「悠久の自然・ガイアの知性」

2 単元について

(1) 単元観

この単元の目標は、文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。〔C(1)ウ〕抽象的な概念を表す語句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにすること。〔伝イ(イ)〕である。第1学年では『笑顔という魔法』で「文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。」〔C(1)エ〕を目標として、内容や要旨を的確にとらえる力を身に付けた。第2学年では『アオスジアゲハとトカゲの卵』で「文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。」〔C(1)イ〕を目標に、3つの例示を通して筆者の主張を理解することができた。

『悠久の自然』は生涯にわたってアラスカの写真を撮り続けた写真家、星野道夫氏の文章である。人間と自然の関わりについて筆者の考えが、具体的な実体験を根拠として書かれている。本教材を読むと、「悠久の自然」という言葉が強く印象に残るように仕組まれている。「そこに在ると思えるだけで心が豊かになれる自然」、「それは僕たちに想像力という豊かさを与えてくれる」等豊かな自然の存在が、人間にとって心豊かな生活を実現してくれるものであることを実感させられる作品である。

『ガイアの知性』の「ガイア」は地球は1つの生命体とする筆者の考え方を表す言葉である。地球に生きる一つの生命体である人類に、問題と新たな主張を投げかける文章となっている。人の「知性」と鯨と象の「知性」に対する科学的な見方や考え方が展開されるこの作品は、最後には同じ地球に生きる私たち人類が、鯨や象からさまざまなことを学び、真の意味の「ガイアの知性」に進化する必要があることが主張されている。生徒は鯨や象に畏敬の念を抱く筆者の豊かな生き方に、思いを馳せることができるであろう。

互いに深い交流のあった両氏の自然観は似ている。主張の共通点は、自然の仕組みの豊かさの発見と、自然から多くの学ぶべき点があると感じていることである。しかし、星野氏は自然の時間の悠久さを感じることによってもたらされる「想像力」や「心の豊かさ」を問題にしながら、自然からの恩恵についての再考を投げかけており、龍村氏はオルカや象の「知性」と人間の「知性」の違いに着目し、地球全体の生命の危機を問題にしながら、人間の「知性」のあり方を私たちに投げかけているという相違点もある。星野氏と龍村氏の主張は、生徒の自然観を大きく覆すものだと考えられる。日々の生活の中にある「身近な自然」を感じることはできても、「遙か遠い自然」があったり、動物に人と同じ「知性」があったりすることなど、生徒は想像もつかないだろう。実際を知ることとおして、同じ地球に生きるものとしての人類の生き方といった漠然としたものではなく、自分を見つめて、地球上に生けるものとして具体的にどんなふう生きていきたいかを考えさせたい。大きさと考えるならば、悠久の自然の中では人間などちっぽけな存在に過ぎないかもしれないが、その悠久の自然を脅かす「知性」をもった存在でもあるということは紛れも

ない事実であるのだから。

さらに発展学習として、両者の文章に加えて別の文章を読む。自然に対するそれぞれの筆者の考えを比較することで、より確かな読み取りが可能になると考える。今回は読書会という手だてを用いることで、生徒の学ぶ意欲を高めていきたい。読書会は、共に読むことを通じて新しい読書の魅力を発見しようという試みである。教科書の冒頭で加藤周一氏が述べているように、読書には「言葉の楽しみ」がある。生徒は『夢を跳ぶ』で「挑戦・夢」をテーマにビブリオバトルを行っており、自分の考えを発信することにたいへん意欲的に取り組んだ。友達と意見を交流することで考えが深まるだけでなく、友達の意外な一面を知り、共に遙か遠い自然の営みに思いを馳せながら、よりよく生きようとして未来を語り合える関係に発展することを願ってやまない。

(2) 生徒の実態

2年B組は男子18名女子17名、計35名で構成される。明るく性格的にたいへん素直で、男女の仲もよく、学級の雰囲気は和やかである。授業には積極的に参加し、発言も多い。話を集中して聞くことがやや苦手であるが、学習や生活に対し前向きに頑張る生徒が多い。本単元を学習するにあたって、言葉のイメージ調査と『ちばのやる気』学習ガイド国語2』を参考にステップチェックを行った。

言葉のイメージ調査

【自然】

森の中(3) 草原 山脈 地球温暖化 きれい(2) 和か なくてはならないもの
自然破壊(2) 水 木が生い茂っている 大きい 逆らうことのできない 澄んだ湖
少なくなっている(3) 人間は絶対に勝てない(2) 緑色(5) 川(2) 太古の大木
多くのことを学べる(2) 様々な動植物が生きている 美しい 都会と違って住みにくい
湖があって花がたくさん咲いている 動物もたくさんいる(2) 落ち着いている感じ
空気がきれい(3) 人間が手を加えないとだめなときもある 酸素が出る 大きい山々
いろんな動物が自由に暮らし、人間もいろんなことをしている まだ知らないことがある場所
学校などに行く途中に生えている雑草や飛んでいるチョウ 田舎の方が自然がたくさんありそう

【地球】

生命 不思議がたくさんある 地球温暖化を防がないといけない(4) 美しいもの
広い 守らなければいけないもの 青色(7) 丸い(3) 生命が誕生する場所
海(4) 私たちが住む星(2) 生命の源 宇宙(3) 大自然が広がっている場所
私たちが生きている場所(2) 人間が守っていかねければならないもの 自分たちの星
自分があるこの星が、テレビで見えるあの地球だとは、あまり想像できない(2)
争いながらも日々進化している場所 全てが生まれた場所
多くの生命が住んでおり、その生命が生きるのを地球が支えてくれている

ステップチェック (8)読むこと

目標①自分の好きな本を見つけ、最後まで読むことができる。

- ・1年生の時と比べて、読書量が増えましたか。 はい28名 いいえ4名
- ・読んでみたい作者や興味のあるジャンルは増えましたか。 はい25名 いいえ8名

目標②学校図書館を利用し、様々な種類の本を読み、必要に応じて情報を活用することができる。

- 必要な情報を得るために、学校図書館を利用していますか。 **はい10名 いいえ23名**
- 図書館を利用する上でのマナーは身につけていますか。 **はい33名 いいえ0名**

目標③公立図書館等も利用し、自分の課題に沿って様々な本を読み、活用するとともに、読書習慣を身につけ、日常的に豊かな読書生活を送ることができる。

- さらに多くの情報を得るために公立図書館を利用していますか。 **はい7名 いいえ26名**
- 読書を自分の生活に役立てていますか。 **はい24名 いいえ9名**

読書についての次の項目の中で、あてはまると思うものに○をつけてみましょう。(数字は人数)

4：あてはまる 3：大体あてはまる 2：あまりあてはまらない 1：あてはまらない

【読書をする理由について】

	1	2	3	4
読んでみたい本がある	24	6	3	0
読んでみたい作者がある	13	10	8	2
読んでみたい本のジャンルがある	15	13	5	0
本を読むことは楽しい	15	17	1	0
本を読むことは自分のためになる	14	15	4	0
本を読むことは生活を楽しくしてくれると思う	10	16	7	0

【読書の実態について】

	1	2	3	4
周りの人と本についてよく話をする	6	9	15	3
本をよく読む	7	16	8	2
図書室や図書館などをよく利用する	2	6	24	1
新聞、雑誌、リーフレット等、本以外の活字を読む	9	6	13	5
人に紹介したい本がある	10	9	12	2

この結果から、読書をする理由について、楽しさを感じている、自分のためになると考えている生徒が多いことがわかる。「いいえ」と答えた生徒の理由が「時間がない」ということだったので、読む時間を確保したり、本を紹介したりすることは読書に関心をもたせる上で、たいへん効果的であると考える。しかし、読書の実態を見ると、「周りの人と本についてよく話をする」と答えた生徒は半数に満たない。「図書室、公立図書館の利用」、「本以外の活字に触れること」も少なく、まだまだ「自ら本に手を伸ばす」状態とは言えないであろう。急がずに焦らずに、より良い読書の習慣を作り、良書との出会いを提供することを目指していきたい。

(3) 指導観

2つの文章を読み比べることについては構成や展開、筆者の考えについて比較しやすいようにワークシートを用意する。『夢を跳ぶ』で「挑戦・夢」というテーマでのビブリオバトルに楽しみを感じた生徒も多かった。読書会には、思いもよらないような考えや共感といった感情を揺さぶるものがたくさんある。固定化されていたイメージが変わってゆく。それが言葉を交わす楽しみである。読書の実態を受けて、改めて読書の魅力を感じる生徒が増えることを願っての挑戦である。今回のテーマは「地球に生きる」である。彼らの未来を切り開く一助となればうれし限りである。

読書会は簡略型の「リテラチャー・サークル」（3～5人のグループで同じ本を読んで

話し合う読書法「朝日新聞社インフォメーションどくしょ応援団どくしょ甲子園」を参考)で、読書の後、(1)思ったこと(2)印象に残った文章とその理由(3)みんなに聞いてみたいこと(4)作者の主張を一言で表すと、という4つの項目について話し合いを進める。その後、「どくしょボード」にまとめ、図書室に掲示する予定である。

選書については、本校の読書活動推進補助教員と白井市立図書館に依頼した。それぞれ4冊以上集められる本で40冊(約160冊)、9月から自由に読めるように教室に置き、読み終わったら自分の名前を書いた付箋を貼らせた。10月に入り、付箋の多い本を十数冊抜き出し、生徒に読みたい本のアンケートを採り、読書会の本を決定した。それぞれ持ち帰ったり、朝読書の時間に読んだりといった並行読書で授業に備えた。

3 単元の目標

- 文章に示された内容やものの見方、他者の意見について関心を持ち、考えを交流しようとする。(国語への関心・意欲・態度)
- 文章の構成や展開、表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えを持つことができる。(読む能力)
- 抽象的な概念を表す語句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにしようとする。(言語についての知識・理解・技能)

4 指導計画 (11時間扱い)

学習過程	学習内容と学習活動	評価規準(評価方法)
一 次	2/11 比べ読みを通して、自然との関わりと私たちの生き方について考えを深めよう。 ○「悠久の自然」は私たちの生活をどのように変えるのか、考えを書く。 ・本文を音読する。 ・構成や示されている例をとらえるためにプリントに記入する。 ・指示語とそれが指している内容をとらえる。 ・教科書P84.85を見てその場面を想像しながら、感じたり、考えたりしたことを書く。	・進んで音読している。 【国語への関心・意欲・態度】(音読) ・構成と例示されているものをとらえている。 【読む能力】(プリント) ・指示語が指している内容をとらえている。 【言語についての知識・理解・技能】【読む能力】(プリント) ・自然を2つに分け、自分の身の周りの自然と悠久の自然との違いを考えることができる。 【読む能力】(プリント) ・自分の考えについて具体例を入れ、根拠を明確にして表現できる。【読む能力】(プリント)
	3/11 ○真の意味の「ガイアの知性」について考える。 ・本文を読み、内容、筆者の問題提	・進んで音読している。 【国語への関心・意欲・態度】(音読) ・「ガイア」「畏敬の念」の文脈上の意味をとら

		起を捉える。 ・3つの例示をまとめる。 ・「攻撃的な知性」と「受容的な知性」はどんなことを捉え、筆者の主張をまとめる。 ○2つの文章の共通点と相違点を捉える。	えている。 【言語についての知識・理解・技能】(プリント) ・問題提起と例示をとらえ、簡潔にまとめている。【読む能力】(プリント) ・「攻撃的な知性」と「受容的な知性」をとらえ、真の意味の「ガイアの知性」はどのような「知性」なのかを書けている。【読む能力】(プリント) ・視点を明確にしている。【読む能力】(プリント)
二 次	3/11	○2つの文章で読んだ視点と、自分が読んでいる本の視点とを読み比べ、考えを深める。 ・読書会の方法を知る。 ・あらかじめ選書された図書の中から読みたい本を選び、原稿を書く。 ・読みたい本が同じ生徒3～5人の班を作り、読書を進める。 ・ワークシートに読んで思ったことや自分の体験を振り返って思い出したこと、印象に残った文章とその理由などを書き込む。 ・話し合いを円滑に進めるために、あらかじめ係を決めておき、話し合いの際はその係が中心となって進める。	・星野さんと龍村さんの主張を意識し、自分の本の主張はどんなことか考えながら、読書を進める。 【言語についての知識・理解・技能】(プリント・ノート) ・原稿ができたなら、教師に見せてチェックを受ける。教師は原稿を預かり目を通す。できない生徒については、あらかじめ用意された質問を投げかけ、書かせる。 【国語への関心・意欲・態度】(プリント)
三 次	3/11 本時 1/3	○読書・学習したことを生かして自分の生き方を考える。 ・班ごとに読書会を行う。 ・読書会で話し合った内容をもとに読書ボードを作る。 ・発表会を行い、他の班とも意見を交流する。	・自分の意見を積極的に述べている。【読む能力】(発表) ・話し合いに積極的に参加している。【国語への関心・意欲・態度】(発表) ・本の魅力を十分に表した読書ボードと発表ができる。 【言語についての知識・理解・技能】(感想)

5 本時の指導

(1) 目標

- 文章または作品に表れている作者(筆者)のものの見方や考え方を理解し、知識や経験と関連づけて、自分の考えをまとめる。(読む能力)
- 本に示された内容やものの見方について関心を持ち、感想を交流しようとする。(国語への関心・意欲・態度)

(2) 展開

曜	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
5 分	・本時の学習を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">比べ読みを通して、私たちの生き方を考えよう。</div>		本 プリント
35 分	・読書会の流れの確認をする。 ○2つの文章で読んだ視点と、自分が読んでいる本の視点とを読み比べ、考えたことを話す。 ・班ごとに読書会を行う。 ・各係が話しした後、自由に、ディスカッションをする。 ①思ったことをめぐる話し合いをする。(ワークシートの「思ったこと」に記録する。) ②文章と理由をめぐる話し合いをする。(印象に残った文章とその理由に記録する。) ③質問をめぐる話し合いをする。(みんなに聞いてみたいことに記録する。) ④「作者の主張を一言で表すと」を発表し、それをめぐる話し合いをする。(「作者の主張を一言で表すと」に記録する。) ・友達の見方はメモを取り、後に考える参考にする。	○文章または作品に表れている筆者のものの見方や考え方を理解し、知識や経験と関連づけて、自分の考えをまとめている。【読む能力】(発表) ・はっきりと大きな声で発表することを指示する。 ・最後まできちんと聞くようにさせる。 ○その本の良さを伝えようとしている。また、理解しようとしている。 【国語への関心・意欲・態度】(発表 観察) ○感想を交流しようとしている。 【国語への関心・意欲・態度】(発表 観察)	
8 分	・感想を書き、発表する。 ・自分についてと思う力について書く。 ・自然から学んだこと	○友達から発表を聞いたことや自分についてと思う力について自分の考えをまとめている。【読む能力】(プリント) 【国語への関心・意欲・態度】(プリント)	
2 分	・次時の予告をする。 読書ボードを作ることを伝える。	○イラストを用意するのを忘れないように伝える。	

(3) 成果と課題

「地球に生きる」という身近でありながらも壮大なテーマであったので、さまざまな角度からの読みができた。選書も小学生向けのものからドキュメンタリーまで幅広く用意してもらい、生徒は事前に何冊か読んで中から選んだので、スムーズに読み進められた生徒が多かった。成果としては、

- (1) 各本に示された内容やものの見方、他者の意見について関心を持ち、考えを交流することで、自分では得られない気づきを得ることができ、自分の生き方についても深く考えることができた。
- (2) ワークシートに記入したことで、話し合いの焦点が明確になった。また、リテラチャーサークル法を用いることで、全員が意見を述べることができ、一人ひとりが充実感を得られた。
- (3) 「どくしょボード」作成の際、その本の魅力や印象に残った文や文章、キャッチコピーを考えさせることで、語感を磨き、語彙を豊かにすることができた。
- (4) 読書を通して級友と交流ができ、互いの意見を聞きながら解決に向けて、主体的・協働的に学習を進めることができた。

以上4点を挙げたい。公立図書館と学校図書館は、その性質上蔵書の種類がやや異なるため、学級での「読書会」は本を集めることに特に困難を極める。今回のように白井市図書館システムの導入により、ずっと願っていた学校間貸出が簡単に素早くできるようになったことは学校図書館活用の活発化に繋がり、大きく道が開けた感がある。早速活用させていただいた。

課題としては、

- (1) 市の人的、物的財産を活用し、実践を継続しながら、研鑽を積むこと
- (2) 得られた成果を他教科でも、日々の生活の中でも生かせるようにすること

朝読書を実施しているおかげか、本校では不読者が多いという印象はあまり受けない。しかし、読んでいる本を見ると、読書に親しむことはできているものの、自分の興味の範疇からは逸しない。だれでも一冊は心に深く残る本があると思う。あの本の中の、自らの心に刺さった表現は、今でも自分の心をそっと支えてくれている気がする。そんな良書との出会いが自己形成に大きく影響することは、自分の経験から言っても紛れもない事実である。言葉の力を磨き、生きる力を蓄えて力強く、相互に学び合う子どもたちの育成をこれからも目指したい。

生徒の感想より

人生の中でより多くのことを学び、周りの人
ちよりも多くの経験をしたい気持ちと姿勢が伝わった。自分も多くのことをやりたいという気持ちが芽生えた。そのために今できることを一生懸命がんばりたいと思うし、挑戦していきたいと思った。成功も失敗もどちらもついでくる。失敗の方が多いかも知れないけれど、挑戦していく姿勢が生きていくのに必要不可欠だと思った。(男子)
『旅をする木』作・星野道夫

3つの文章を読んで、自然は、人間が思っているほど人間が簡単に左右できないくらい大きなものであると、改めて感じた。私はいつか全部機械がやってくれる便利な日が来てほしいと思ったことがあるが、本当にそれでいいのか、科学文明をただ発達させることが本当に正しいのか怪しく思った。全人類が自然について深く考え疑ってみれば、大きな力になる。(女子)
『ぼくの稲荷山戦記』作・たつみや章

読書会で、相手と話しているうちにわかってきたことがあった。特に今日考えさせられたのは「愛が人を動かす」ということ。「相手を知る」ということについてとても考えを深められた。相手のことを考え、想う心が人を動かすほどの愛になるのではないかと気づかされた。「相手を知る」は知るということで、新しい考え、知識を学ぶことができるし、見てた世界に変化を感じることができた。読書会で学んだことを自分の人生に入れていくことで、人が人を思い、狐が人を思うそんな支え合えるような人との関係を築くことができるのではないだろうかと考えられるようになった。(女子)
『狐笛のかなた』作・上橋菜穂子

太陽や地球がないと今の私たちはいないから、それらができたこと、今こうして私たちが生きていることは奇跡なんだと思った。友達の見解には生物は地球がないと生きていけないし、私たちがいるから地球があるという考えもすばらしいと思った。なぜ、どのように生命が生まれたのかとても不思議に思ったけれど、日々何かが変わっていき、将来新しい生命などが誕生するとき、人間がサルからできたように、今度は私たちが十台となって新しい何かが誕生するのかもしれないと、少しワクワクした。(女子)
『せいめいのれきし』作・バ・ジニアリ＝バートン

読書会を通して自分だけの考えではいけないということがわかった。自分が思っていること考えていたことを共有して、もっといい考えを出していくことが大切だとわかった。(男子)
『あなたが世界を変える日』作・セフ・アリス＝スキ

ものをたくさん売ったり、たくさんものを使ったり、無理なことはせずにものを大切に使うことが楽しく暮らすことが大事なのかと思いました。いろいろな生き方を感じられた。決して自分の判断が正しいとは限りません。話し合いをして自分が正しいのか相手の意見の方がいいのか選択肢が広がるんだと思います。(男子)
『かほちゃん人類学入門』作・川原田徹

読書会では、自分には考えつかなかった意見が聞けて共感しました。私が今まで思っていたことが少し変わりました。自然の偉大さや、自然が与えてくれるものがたくさんあることに気づかされました。自然が減ってしまえば人間は生きていけなくなります。だからこそ、守らなければいけない。「これから」を作っていくために。(女子)
『ぼくの稲荷山戦記』作・たつみや章

私はこの本を読んで強い愛は必ず勝つということが学べました。私はけっこうドライな性格でこういうことは気にしたことはないのですが、何かを愛することは、人生でかなり大切なのではないかと思いました。また、人が思いやるからわかることを見せてくれるものがあるというのを読んだわかりました。読書会をすることによって、友人の意見を聞き、気づかなかったことに気づくことが出来ました。この本を読んで、また読書会をして本当によかったです。(女子)
『狐笛のかなた』作・上橋菜穂子

今まで僕は生きるためにどのようなことが必要かなど考えていなかった。けれど、生命力とは何かなどを知ることにより、今までの生きた人生は正しいものだったのかを考えられた。考えた結果、もっと心を豊かにしていかなければならない。確実に想像力を身につけなければならぬことを感じた。これからの生き方は正しい方向に導かれるだけでなく、自分の心を成長させながら、自らを置いていくような生き方をしていきたいと思った。これからはどんどん自分の可能性を広げていきたい。(男子)
『地球の祈り』作・龍村仁

地球に生きる「読書会」ブックリスト

No.	タイトル	分類	著者	出版社	所蔵
1	地球の祈り	914	龍村仁/龍村ゆかり	角川学芸出版	南山中・個人
2	旅をする木	295	星野道夫	文藝春秋	南山中・個人
3	せいめいのれきし	E	バージニア・リー・ハートン	岩波書店	市立図書館・桜台中・南山中
4	ある池のものがたり	452	三芳梯吉	福音館書店	市立図書館・南山中
5	南極がこわれる	488	藤原幸一	ポプラ社	市立図書館・第三小・七次台小
6	かぼちゃ人類学入門	112	河原田 徹	福音館書店	市立図書館
7	狐笛のかなた	913	上橋菜穂子	理論社	市立図書館・白井中・七次台中 桜台中・南山中
8	あなたが世界を変える日	519	セヴァン・カリス・スズキ	学陽書房	七次台小・桜台小・七次台中
9	ぼくの稲荷山戦記	913	たつみや章	講談社	市立図書館・白井中・大山口中 七次台中・桜台中・南山中
10	夏の朝の成層圏	913	池澤夏樹	中央公論社	桜台中・南山中
11	マイナス50°Cの世界	292	米原万里	角川書店	白井中・大山口中
12	無人島に生きる十六人	290	須川邦彦	新潮社	白井中・大山口中
13	やまとゆきはら(白瀬南極探検隊)	E	関屋敏隆	福音館書店	市立図書館・第三小・白井中
14	ちいさいおうち	E	バージニア・リー・ハートン	岩波書店	市立図書館
15	水の伝説	913	たつみや章	講談社	市立図書館・白井中・大山口中 七次台中・桜台中・南山中
16	森へ	295	星野道夫	福音館書店	市立図書館
17	アラスカたんけん記	295	星野道夫	福音館書店	市立図書館
18	川は生きている	452	富山和子	講談社	市立図書館・白井中
19	森は生きている	650	富山和子	講談社	市立図書館・南山中
20	地球環境と人間(ジュニア自然図鑑10)	519	清水潔	実業之本社	市立図書館
21	生物の消えた島	468	田川日出夫	福音館書店	市立図書館・南山中
22	森はだれが作ったのだろうか?	653	ウィリアム・ジャズハットン	童話屋	市立図書館
23	一本の樹からはじまった	916	土岐小百合	アリス館	市立図書館・白井中 七次台中・桜台中
24	種をまく人	933	ポール・フライシュマン	あすなる書房	市立図書館・白井中 大山口中・桜台中・南山中
25	ナイル川とエジプト	242	赤地経夫	福音館書店	市立図書館
26	アルプスの巨峰にいでむ	298	ウインバー	あかね書房	市立図書館・第三小・白井中
27	アコンカグア山頂の嵐	296	チボル・セケリ	福音館書店	市立図書館
28	アイヌネノアンアイヌ	382	萱野茂	福音館書店	市立図書館
29	ダーウインの世界一周	402	ミリセント・E・セルサム	福音館書店	市立図書館
30	もっとはやいものはスピードのはなし	423	ロバート・フロマン	福音館書店	市立図書館
31	大きいってどんなころ-星から原子まで-	420	ハーマン・シュナイダー	福音館書店	市立図書館
32	地球-その中をさぐるう-	450	加古里子	福音館書店	市立図書館
33	ビッグ・グリーン・ブック	519	フレッド・ピアーズ	ほんの木	市立図書館
34	尾瀬をまもる人びと	519	後藤充	大日本図書	市立図書館
35	植村直己・地球冒険62万キロ	786	岡本文良	金の星社	市立図書館・第三小・桜台小 七次台中・大山口中・南山中
36	島のたんじょう	454	ミリセント・E・セルサム	福音館書店	市立図書館
37	野尻湖のぞう	457	井尻正二	福音館書店	市立図書館
38	マンモスをたずねて	457	井尻正二	筑摩書房	市立図書館・南山中
39	自然と人間をまもる発明発見物語	519	鈴木善次編	国土社	市立図書館・白井中 七次台中・南山中
40	自然保護は何を保護するのか	519	山岡寛人	ポプラ社	市立図書館・白井中・南山中
41	月神の統べる森で	913	たつみや章	講談社	市立図書館・白井中 七次台中・南山中
42	嵐の大地パタゴニア	915	関野吉晴	小峰書店	白井中・大山口中 七次台中・桜台中・南山中
43	いま生きているという冒険	290	石川直樹	理論社	大山口中・七次台中 桜台小・南山中
44	エンデュアランス号大漂流	936	エリザベス・コーティエ・キル	あすなる書房	大山口中・七次台中
45	一本の温度計	451	菅原十一	童心社	市立図書館